

## ART LEAP 2021 展覧会プラン募集開始 について

新たな表現の創造と、意欲的な挑戦の舞台へ――

30代～40代の芸術家を対象とした展覧会プラン公募プログラム

第4回の審査員は、キュレーター 遠藤水城 氏に決定

神戸アートビレッジセンター [KAVC] (神戸市兵庫区、指定管理者：公益財団法人 神戸市民文化振興財団、館長：大谷燾) は、4月1日(木)より5月31日(月)の期間中、公募プログラム「ART LEAP 2021」の展覧会プランを募集いたします。2021年度で4回目となる今回は、審査員にキュレーターの遠藤水城氏を迎えます。選出した1名(組)の作家は、2022年2月～3月に当センターを会場に個展を開催します。

当センターは、美術、演劇・ダンス、映画、音楽など幅広い芸術文化を神戸から発信する複合文化施設です。美術事業では、作家と連携した展覧会づくりを重視し、枠に囚われない表現の可能性を追求する展覧会を実施しています。「ART LEAP」は、2018年より開催する30代～40代の芸術家を対象とした公募プログラムです。企画名にある「LEAP」とは、「飛び越える、飛んで前に進む」という意味を持つ言葉です。本企画が、自身の表現手法を確立した作家にとって、表現の幅を広げることのできるステップアップの機会となることを期待します。また今回は、「審査員からの設問への回答」が提出資料に新たに追加されることになりました。展覧会プランの提出に加え、遠藤水城氏から投げかけられる「設問」への回答も審査過程の1つに含まれます。

これまでの「ART LEAP」では、KAVCシアターにおける劇場空間の特性を活かした作品や、神戸でのリサーチ活動を経て着想を得た作品が展開されました。美術館でもギャラリーでもない、さまざまな人が行き交う当センターを会場に、これまでの自身の表現を飛び越え、可能性を広げることのできる意欲的な作家、および展覧会プランをお待ちしています。

**遠藤水城 (えんどう みずき) キュレーター/東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス (HAPS) 代表**



1975年札幌生まれ。2004年、九州大学比較社会文化研究学府博士後期課程満期退学。現代美術を専門とするキュレーターとして、これまで国内外で数多くの展覧会や芸術祭の企画を手がける。アークス・プロジェクトのディレクター(2007-2010年)を経て、2011年より「東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス (HAPS)」代表。2017-2020年まではベトナム・ハノイ市に新設された「ビンコム現代芸術センター」芸術監督。主著に「陸の果て、自己への配慮」(PUB、2013年)。国際美術評論家連盟会員。

写真：麥生田兵吾

### 審査員コメント |

この賞は30～40代を対象としています。本来であれば「中堅」として確固とした制作ならびに発表のスタイルが確立されるべき時期にあたるでしょう。しかし現在、そういった安定を想定することが難しいのではないのでしょうか。何かが「確立」されるべき土台が揺らいではいないのでしょうか。むしろこの年代は、来るべき未知のアートに対して自身を変化させる時期、あるいは変化そのものを体現する時期にあたるのではないのでしょうか。つまり、何らかの「ターニングポイント」を打つ、ことが求められているのではないかと思います。

今回、審査員として新たに設問を作成させてもらいました。意欲的なアーティストからの素晴らしいプランを待っています。

**ART LEAP 2021 の特徴 (これまでの審査過程と異なる点)****▶WEB での応募受付**

展覧会プラン、ポートフォリオほかの提出資料一式を、Web フォームへの記入、データアップロードを通じて受け付ける方式に変更します。ただし、WEB 応募が難しい場合は、郵送での受け付けにも対応します。

**▶審査項目の追加**

提出資料に「審査員からの設問への回答」が新たに追加されます。(設問内容は以下参照のこと)

**【対象】**

2021 年 3 月末の時点で、30 歳以上 50 歳未満であること。(グループの場合、全員が上記の年齢の枠内であること。)

**【応募受付期間】**

2021 年 4 月 1 日 (木) ~ 5 月 31 日 (月) 22:00 当日必着 ※火曜日休館 [ただし、5 月 4 日 (火・祝) は開館、5 月 6 日 (木) 休館]

**【主なサポート内容】**

- ・制作補助費：50 万円
- ・神戸アートビレッジセンタースタッフによる展示並びにキュレーション・サポート
- ・展覧会記録集の作成

**【審査員の遠藤水城氏より新たに付加された設問事項】** ※回答の書式と文字数は自由です。

**〈設問 1〉**

審査が 5 項目の基準でなされるとします。それぞれ 5 点満点で最高点が 25 点だとして、あなたの展覧会プランが満点を獲得するとしたら、その審査基準 5 項目はどのようなものでしょうか。例えば、私は自分がかつて企画した展覧会「裏声で歌へ」が好きなのですが、その場合は 1. 中学生への訴求度、2. 価値基準の複数性の明示、3. 参加作家の満足度、4. おおらかさ、5. 「全体」の見渡せなさ、という基準において満点であり、他のいかなる展覧会よりも優れていると考えることができます。自分の得意分野を審査基準にしてしまえば、一番になれるはずで。ということで、5 項目を挙げ、必要であればそれぞれの項目について説明してください。また逆に、こういう審査基準は採用しないでほしい、というものを 3 つ挙げ、必要であればその理由を書いてください。

**〈設問 2〉**

今回の展覧会はコロナウィルスの拡散状況によって日程の変更や短縮があるかもしれません。最悪の場合、中止すら想定されます。またパンデミックに限らず、そういった不測の事態は常に起こりうるとも言えます。あなたの展覧会プランはどのような状況にどのように対応するものですか。変更可能性や代案などがあるでしょうか。あるいは、今回の展覧会プランはどのような状況を踏まえたものでしょうか。時間と空間が確定し安定している「展覧会」という制度が崩れ、不安定な「例外状態」が露出した場合、あなたの芸術実践はどのような意味を持ちますか。

**【公開プレゼンテーション (最終選考)】**

実施予定日：2021 年 7 月 25 日 (日)

一次審査通過者による展覧会プランのプレゼンテーション審査を行います。通過者一覧は当館ホームページにて発表し、プレゼンテーションは一般公開されます。(公開方法は、YouTube でのライブ配信を予定。) 審査講評は後日ホームページにて掲載を予定しています。

**▶詳しい募集要項および応募方法・手順については、神戸アートビレッジセンター HP にて公開しています。**  
URL : <https://www.kavc.or.jp/events/7444/>